

令和6年度 自己評価結果公表

社会福祉法人若竹会
あそびの森ゆう
あそびの森ゆう+

1. 本園の教育目標

すこやかでたくましくすなおな子ども

- ・たくましくすくすく育つ健康な子ども
- ・創造性と感性豊かな子ども
- ・思いやりがあり、みんなで仲よく遊べる子ども
- ・自分のことは自分でできる子ども
- ・あいさつができ、ルールを守れる子ども

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ◆行き届いた環境の中で情緒の安定を図り知・情・意・徳・体の調和のとれた全人教育をめざし人間形成をする。
- ◆「とことん遊ぶ」と「自分でできる」を保証することで、主体的で、対話的で、深い学びにつなげていく。
- ◆「ステキな保育者、子どもの憧れ」を意識することで、保育者自らが子どものなりたい自分につながるような存在を目指す。
- ◆「子どもの、今のキモチを考えてみる」ことで、子どもの気持ちに寄り添うと共に、愛着関係や信頼関係を築き、子どもにとっての「うれしい先生」を目指す。

★保育環境スケールを用いて考える保育へ

★デザインマップと実践・マップを用いた保育内容・環境の充実

あそびの目標：とことん遊ぶ

◎各々の年齢の発達に合わせた遊び・遊び方 ◎集中して遊ぶ環境づくり

生活の目標：自分でできる

◎言葉かけ ◎心待ち

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
保育理念	認定こども園教育・保育要領や法的根拠などについて日々学ぼうとしている。

保護者支援 組織性の理解	自分の働いているこども園の理念や目標を意識して保育している。
	養護と教育の一体性を意識しながら計画を立て、幼児教育・保育に取り組んでいる。
	こども園以外の機関との連携を心掛けている。
	子どもの姿について、保護者と喜びを共有している。
	困っているのは保護者自身であることを理解して支援している。
	自分から職員や保護者に対して笑顔であいさつするように心がけている。
	誰かがやらなくてはいけない大変な仕事を、進んで引き受けている。
子どもの姿を捉えた準備	新しい保育の内容や方法などの情報を集め、取り入れている。
	子どもの発達の特長や過程、連続性について学ぼうとしている。
	子どもが安全、快適に過ごせる空間を整えている。
	子どもの興味・関心に合わせて、環境構成を行っている。
	一人ひとりの子どもの姿をイメージして教材などの準備をしている。
	絵本などの児童文化財について、しっかりと準備をしている。
	子どもの心情や意欲を考えて、遊びの共有や継続の工夫をしている。
	日々の保育の中で、一人ひとりの育ちに合わせて、デザインマップやエマージェントを作成している。
意識的な実践	日々、自分に課題を持って保育に取り組んでいる。
	子どもの姿に合わせて、遊びが継続するようにデザインしている。
	毎日、一人ひとりと挨拶を交わし、視診をしている。
	子どもに対し、指示や命令、依頼の言葉よりも誘いかける言葉を多くしている。
	子どもに対し、指示や命令、依頼の言葉よりも誘いかける言葉を多くしている。
	一人ひとりの心の動きを考えながら、言動するように心がけている。
	自然環境を感じられる工夫をしている。
	基本的生活習慣については、一人ひとりの育ちに留意して取り組んでいる。
	遊びを通してどのような経験、育ちをして欲しいか考えている。
客観的な振り返り	一日の保育を振り返り、自分の言動を省察するように努めている。
	保育のよかったところ、悪かったところを記録として残している。
	他者が見ても理解しやすいように記録している。
	子ども一人ひとりの生活・活動を振り返り、保育のねらいと照らし合わせている。
	保育の中で気付いた自分自身の課題は、次の保育から改善するように努めている。
	子どもの姿を振り返り、翌日の保育をデザインしている。
	謙虚な気持ちで、他者からの保育に関する意見を聞くことができている。
	尊敬の気持ちを持って、他者の保育に対する自分の思いを伝えている。

項目別の集計

評価項目	取 組 み 状 況	あそびの森ゆう		法人全体	
		はい	いいえ	はい	いいえ

組織性の理解 保護者支援 保育理念	保育所保育指針や法的根拠などについて日々学ぼうとしている。		75	25	84	16
	自分の働いている保育園の理念や目標を意識して保育している。		89	11	95	5
	養護と教育の一体性を意識しながら計画を立て、幼児教育・保育に取り組んでいる。		75	25	66	34
	保育園以外の機関との連携を心掛けている。		53	47	43	57
	子どもの姿について、保護者と喜びを共有している。		93	4	86	14
	困っているのは保護者自身であることを理解して支援している。		91	9	91	9
	自分から職員や保護者に対して笑顔であいさつするように心がけている。		100	0	100	0
	誰かがやらなくてはいけない大変な仕事を、進んで引き受けている。		82	18	81	19
子どもの発達援助	子どもの姿を捉えた準備	新しい保育の内容や方法などの情報を集め、取り入れている。	75	25	59	41
		子どもの発達の特性や過程、連続性について学ぼうとしている。	93	7	88	12
		子どもが安全、快適に過ごせる空間を整えている。	100	0	79	21
		子どもの興味・関心に合わせて、環境構成を行っている。	82	18	70	30
		一人ひとりの子どもの姿をイメージして教材などの準備をしている。	82	18	61	39
		絵本などの児童文化財について、しっかりと準備をしている。	67	32	52	48
		子どもの心情や意欲を考えて、遊びの共有や継続の工夫をしている。	89	11	71	29
		日々の保育の中で、一人ひとりの育ちに合わせて、デザインマップやエマージェントを作成している。	71	29	58	42
	意識的な実践	日々、自分に課題を持って保育に取り組んでいる。	82	18	82	18
		子どもの姿に合わせて、遊びが継続するようにデザインしている。	64	36	57	43
		毎日、一人ひとりと挨拶を交わし、視診をしている。	93	7	80	20
		子どもに対し、指示や命令、依頼の言葉よりも誘いかける言葉を多くしている。	100	0	87	13
		一人ひとりの心の動きを考えながら、言動するように心がけている。	96	4	89	11
		自然環境を感じられる工夫をしている。	61	39	50	50
		基本的生活習慣については、一人ひとりの育ちに留意して取り組んでいる。	86	14	78	22
		遊びを通してどのような経験、育ちをして欲しいか考えている。	86	14	74	26
	客観的な振り返り	一日の保育を振り返り、自分の言動を省察するように努めている。	96	4	81	19
		保育のよかったところ、悪かったところを記録として残している。	43	57	40	60
		他者が見ても理解しやすいように記録している。	68	32	51	49
		子ども一人ひとりの生活・活動を振り返り、保育のねらいと照らし合わせている。	64	36	56	44
		保育の中で気付いた自分自身の課題は、次の保育から改善するように努めている。	100	0	81	19
		子どもの姿を振り返り、翌日の保育をデザインしている。	68	32	58	42
		謙虚な気持ちで、他者からの保育に関する意見を聞くことができる。	92	8	92	8
		尊敬の気持ちを持って、他者の保育に対する自分の思いを伝えている。	86	14	85	15

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

自己評価は、保育の質の向上を考える上で保育現場には必要不可欠なものと考えてきているが、昨今の不適切な保育を巡る社会的状況を考慮すると、自己評価の内容の検討も必要なことであるように思われる。

あそびの森ゆう及びあそびの森ゆう＋では、今年度初めて一年を振り返る形で自己評価を実施し、次年度に向け、保育者として一人ひとりが保育を振り返り、見直す機会を設けました。

今回は、令和6年度自己評価の法人内平均と比較することで、回答の傾向を明確にしてみようと試みます。令和6年度より保育マネジメントをベースとした地域一番店プロジェクトを実施して活動しはじめたことにより、これまで以上に子ども主体の保育に向かってチームで努力している姿も伺うことができます。

全体としては、「1.保育所保育指針や法的根拠などについて日々学ぼうとしている。」「2.自分の働いている保育園の理念や目標を意識して保育している。」の二つの項目を除いてすべて法人平均を上回った回答になっている。これは、「子ども中心」や「子どもファースト」という姿勢を、日常の保育や研修で常に呼びかけてきたことにより、ほぼ全員の保育者が意識的に業務にあたっていることがうかがえる。しかし、保育所保育指針の理解や保育園の理念・目標を意識している保育している点について評価が低いことから考察すると、「とことん遊ぶ」「自分でできる」「ステキな保育者子どものあこがれ」というような保育ビジョンへの理解が不十分なことや日々の保育において保育所保育指針参照するといった基本的な学びの姿勢はまだ不十分なように思われる。

注目するのは、「5. 子どもの姿について、保護者と喜びを共有している。」「6. 困っているのは保護者自身であることを理解して支援している。」「7. 自分から職員や保護者に対して笑顔であいさつするように心がけている。」の3つの評価が極めて高いことである。それは、普段から保護者への対応や挨拶について丁寧な対応を心がけていることが拝察される。保育者皆が子どもを大切に、保護者にも破意を持って向き合っているという意識は、園としての強みであるが、自身の思い込みや一人よがりにならないように、客観的に見てこうなのかということを常に意識していく必要がある。

次に、「18. 子どもの姿に合わせて、遊びが継続するようにデザインしている。」「28. 子ども一人ひとりの生活・活動を振り返り、保育のねらいと照らし合わせている。」の回答が低くなっていた。一人ひとりの子どもに丁寧に向き合う姿勢は皆持っているものの、その姿から保育を展開させていこうとする意識が不足しているように感じられる。「子ども中心」のみでなく、「子ども中心の遊びが継続していく環境」への意識を持てるような工夫をしていく必要がある。

また、「22. 自然環境を感じられる工夫をしている。」の回答も低調である。職員間で、自然環境に子どもが触れ合える環境が不足しているという認識があるようである。自然が少ない地域とはいえ、日常の園外保育でも、ただ公園を目指すだけでなく、地域の自然を意識できるような働きかけも必要だと考える。加えて次年度は、年長児は姉妹園あそびの森あきわ（長野県）との交流を行う予定もあるため、そこで自然を感じられる経験もしてもらいたいと考えている。

法人全体としても低調な回答であった「4. 保育園以外の機関との連携を心掛けている。」については、地域諸機関との連携が弱いという意識については、今後の課題である。区役所や療育機関、学校のみならず、地域資源の活用を意識して地域や近隣園、商店街等との交流も積極的に行っていく必要があると考える。

総じて、自己評価の各項目が法人平均より大幅にプラス傾向にあり、令和6年度の当園は、保育者の意欲が高い状態であったと思われる。一方、「客観的な振り返り」項目は法人平均同様低調な状況であるが、「29.保育の中で気付いた自分自身の課題は、次の保育から改善するように努めている。」は高い評価をつけているので、保育において振り返りが単純に不十分なのではなく、保育の質を意識した評価がなされているのかもしれませんが。今後も振り返りと保育をつなげる習慣を持てるように、「保育の質」につながるようなチームで解決する仕組みを進めていくようにしていきたい。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保育理念 保護者支援 組織性の理解	保育理念・保護者支援・組織理解などは、全体として上下していること項目が現れている。コロナ感染症に対する行動制限が解除されたことにより、コロナ前に行われていたような、外部機関との連携、地域との関わりを展開していく必要がある。地域資源を活用するといった保育内容については、まだまだ職員法海が不十分なので、その学びの意味や目的を確認しながら理解を深めていく。
客観的な 振り返り	環境構成の意味を考えると共に、環境を日々整えるためのミーティング時間が大切である。雑談的なコミュニケーションを重ねることで、保育に関する情報共有を増やしていくことが寄り効果的と考える。また、職員配置を増やしていく中で、ノーコンタクトタイム有効利用や職員間の連携につなげていく。
	保育の質に直接つながる「振り返り」の時間の確保は、引き続きノーコンタクトタイムの活用を検討していく必要がある環境構成同様に一人で考えるのではなく、複数の人間の考えを持ち寄って行う必要があり、チームで考える・振り返る習慣につなげていく。

6. 学校関係者の評価

【令和6年12月20日実施】

当園では、保護者全員に対して、第三者評価に必要なアンケート調査を実施した。

大凡の回答は、「はい」または「どちらとも言えない」の良好な回答をいただいていた。日々の保育については、子どもの興味関心に沿った活動をしていることを十分にご理解いただいているようであり、今後も子どもの「やってみたい」を大切に社会や自然との関わりを意識した経験的活動をおこなっていきたいと考えている。

「いいえ」の回答が最も大きかったのは「外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか」であった。苦情窓口については、おたよりの他、本園分園ともにエントランスに掲示しているが、十分な告知ができていなかったようである。

開園3年を終え、今後も、子ども主体・子ども中心の考え方が保護者に浸透し、選ばれる保育園を目指して、当園の方針をご理解いただけるように情報提供・情報発信を重ねて、よりよい保育園、保育の充実を図っていきたいと考えています。